おとずれ《2019‘教皇フランシスコ来日　特別号》

カトリック富士吉田教会

このロゴマークには、教皇フランシスコ来日のテーマである「すべてのいのちを守るため」という想いが込められています。自然豊かな日本をかたどった緑の炎は、日本の教会の礎である殉教者の赤い炎と、全人類を子として抱く聖母マリアの水色の炎と一つになって、希望の福音を告げ知らせる使命を表現しています。そして、太陽をイメージした赤い円は、分け隔てなく愛をもって、すべてのいのちを包み込んでいます。

教皇ミサに参加して

主任司祭　内藤　聡

今年１１月２３日から２６日にかけて、教皇フランシスコが日本に訪日されました。

私は教皇ミサにＷＹＤの大会でも参加したことがあり、その時も司祭として参加しました。その時ももちろん感動しましたが、今回は日本に来られてのミサということでやはり格別の思いを感じました。

当日は午前中から東京ドームに行き、ミサでの聖体奉仕の説明等を聞きました。ミサ前に教皇様がパパ・モービレでドームを移動されるときは、司祭団もスマホを手に取って写真を取っていて、私も司祭席の２列目にいましたが、教皇様を近い距離で見ることが出来ました。

今回の教皇様の説教やメッセージの詳細はカトリック新聞などでも掲載されているので、読んでいただければと思います。難しい現代社会において日本の教会のみならず、日本の社会全体でも色々と考えさせられるものだと思います。

教皇様のメッセージを心に留めていきながら、私自身もこれからの宣教司牧などに役立てていければと思いました。

長崎の教皇ミサに参加して

新井　静香

当日の早朝は曇っていたんですが Am9:00 頃から雷と雨が激しくなり教皇様が原爆公園の式に行かれる頃にはどしゃ降りで私たちは傘の持ち込みが禁止だったのと、会場内では折りたたみ傘もさしてはいけないと言うことでカッパだけ・・・皆さん大変でした。

Am１１：００頃から雨が上がり始め正午には良い天気になり Pm１：３０からのミサ中は暑すぎる位で、終了時点では雲一つない晴天状態で汗だくでした。これも神様の思し召しでしょうか？

３８年前の法王様のミサの時は長崎でも珍しい雪が降り沢山の病人が出たとか？今回はそんな事はなかったですが、どしゃ降りから晴天へと激しいお天気の変貌には何か意味があったのだと思いました。雨の勢いで娘と孫の２人は行くのを断念し、悔しい思いをしましたが、他にも沢山の人たちが悩み決断をした事でしょう。神様が試練をお与えになったのだろうと思います。その勢いもあってか、御ミサが又一段とありがたく感じられました。本当に行きたくても行けなかった方々の事を思ったり、会場内での出来事も試練でした。トイレに並ぶ人の列を見ただけで気が遠くなりそうな・・・

入場の時には、沢山の神父様の数にびっくりしました。こんなに神父様がいらっしゃるんだと！

教皇様が入場の時にはパパモービレに乗り会場内を回遊して下さり小さい子供を見ると立ち止まり祝福をして下さり、一同の「わーっ」という歓声が沸き上がり会場の盛り上がりがありました。

子供を大切にして下さる教皇様の事を嬉しくも思い孫たちも来れば良かったのにと、残念に思ったり、ミサは聖歌隊の素晴らしい歌声が空に響き渡り、あわれみの賛歌などの挿入歌は何万人という信徒の合唱は素晴らしいものがありました。

教皇様の説教も大きなモニターに通訳されていて分かりやすく、聖体拝領は何十人という神父様がブロックごとにいて、御聖体が足りなくなると半分に割って頂きました。あれだけの大勢の参加の御ミサに与り、とても感動しました。神様が愛と平和を切望していらっしゃる事を切実に感じられる教皇様の来日でした。日頃の自分を振り返り、他者に無関心ではなく、自分の出来ることで平和に繋がる何かをしなければならない。同じ地球に住む、隣人としてもっと協力し合い地球 and 人間を守っていかなければならない事を日々の生活に追われ安易に過ごす毎日。時間をもっと大事にしないといけない・・・

弱い人間、貧しい人から目を背けず、立ち迎えられればどんなに良い事か・・・

地球全体の問題としてもっとも小さい一人一人が、協力し合い住み良い地球になるといいな。

「青年との集い」プレゼントの法被を着て

教皇のイエス・キリストの証し

松島　遥

私は教皇様来日行事の東京教区のカテドラルである関口教会で開催された「青年との集い」で司会を担当させていただきました。前日・当日の準備としてリハーサルを行い、1分たりとも遅らせる事のないよう時間厳守でお願いしますと繰り返し言われていたのですが、実際の「青年との集い」では、10 分の予定だった教皇様のスピーチが 20 分増えて、計 30 分に。なんとも教皇フランシスコらしい集まりになったなと感じました。司会者なのに私も教皇に抱きしめてもらいました。いい匂いで柔らかかったです。

教皇フランシスコの訪日は、日本のカトリック教会全体だけでなく、メディアでもその発言が取り上げられ、非常に大きな影響力を持つものだったと思います。World Youth Day（世界中のカトリック青年が集う大規模な巡礼)に参加することやバチカンに私たちが訪れることとは異なる、訪日の意義は、①わたしたちが行くのではなく、教皇様が来られること ②日本から世界に向けてメッセージを発すること にあると考えます。

現在 82 歳の教皇フランシスコ。今回の日本への訪問のなかで、1日で東京、長崎、広島を訪れるという過密スケジュールをこなすなど、大変お疲れになられたでしょう。東京での訪日行事の前日、長崎のミサの様子をインターネットで見ていたのですが、何度か教皇様のお体が心配になる場面がありました。しかしながら、「青年との集い」では、非常にパワフルで、熱くメッセージを語りかける姿、難民・障がいを持っている方・登壇者・あらゆる人のそばに行き、積極的に出会おうとする姿で私たちに会いに来てくださいました。教皇様は現実に 82 歳で、体の限界がありながらも、それでも人々のところへ出向いていく痛々しいほどに強い姿、一人一人の人と積極的に出会おうとする愛への奉仕の姿の中に、イエス・キリストの福音を証しする方だという実感を持ちました。

今回の訪日では、一人一人にいろいろなドラマがあったと思います。また、日本のカトリック教会が強められた記憶でもあると思います。今回このような形で参与できたことを嬉しく思います。

「青年の集い」では、日本に生きる難民の方も参加され、教皇フランシスコは、その場で改めて、日本の難民受け入れの必要性を強調しました。訪日に伴う教皇フランシスコのメッセージは、核兵器廃絶と平和のメッセージ、原発反対、学歴主義社会・競争社会、無関心・無感動の蔓延、いじめと差別、霊的な貧困 などそのテーマは多岐に渡りながらも、一貫して日本社会及び世界全体での福音的な価値や視点の発展の必要性を強調しました。教皇様はバチカンに帰られましたが、教皇様が残してくださったこのメッセージを現実のものにしていくことが、教皇訪日の意義をますます深めていくことのように思います。この教皇様のメッセージを今の社会で受肉させていく使命を私たちが託されたのだと考えます。

神父様達がいっぱいいて、驚きました。
教皇様は、にっこり笑っていました。

３年　中田一雄

とても印象的だったのは、教皇様の入場時の笑顔と、ミサのスピーチでの真剣な表情の対比でした。

「社会的に孤立している人が決して少なくない」、「利益と効率を追求する過剰な競争意識によって、ますます傷ついている」とのお言葉は、私たち、特に若い世代に真剣に向き合い、何に苦しんでいるかを気づかせて下さいます。

教皇様の愛を感じるスピーチでした。

大野　隆

ミサへの参加は今回が２回目でしたが、ローマ教皇様のミサに参加する事が出来てたいへん貴重な経験となりました。会場には日本人ばかりではなく、多くの外国人の方々もいて改めて世界中の人たちが信仰していると実感しました。ミサが始まると会場が一体となった事に感動しました。

また以前、梅村司教様から「私たちは、自分の意思だけでなく神様から召命されて幼稚園教諭の仕事についている。」とのお話を頂きました。神様のご意志や教皇様のお言葉を受け止め、これからもカトリック幼稚園教諭としての使命を果たしていこうと思います。

小さき花幼稚園教諭　　渡邊　真帆

教皇フランシスコの慈しみのご行為は
主イエスの私たちへの慈しみを実感させて
下さった。

サレジアンシスターズ　川下　ハセ

バスの中で「教皇様選出のビデオ」を観ている時から既に涙目だった私は、パパ様会場入場の段階で涙腺が破裂！大興奮のミサとなりました。

日本語だけでなく、英語、韓国語、ベトナム語、タガログ語、スペイン語などで行われた共同祈願や聖歌が、祈り歌われるミサを通して、「カトリック信徒」という一体感に満たされたミサでした。

ミサに与れたこと、機会を作ってくださった皆様に感謝！

江守　香代子

「沖に見えるはパーパの船よ。丸に矢の字（マリア様のこと）の帆が見える」
これは外海のキリスト信者が、先祖七代、神父を待ち続けて伝えた歌である。
『ローマのお頭さま』とキリスタン達が、慕っていた。
この東京ドームでの教皇ミサには、38 年前と今回参列する事が出来てとても感激して感謝でいっぱいになり、この福音の喜びを子供や孫たちにしっかり語り伝えたい。

東海林　義夫

教皇様は西坂の二十六聖人記念碑前のスピーチで、「一人の巡礼者として祈るためにこの地に来ました。」と話されましたが、東京ドームでの歓喜の中、私達の心の内にも深く訪れて下さいました。

まるでキリストが語りかけてくれた様に、思えたのは私だけでしょうか？

遠く名古屋から、姉妹　甥　従妹妹達も教皇様のミサへの参列の恵みにあずかる事ができ、深く祈りました。私の先祖は迫害によってのがれるうちに、西海の島にたどり着き、信仰を守ってきましたが、信仰によって迫害された、人々の苦難を思い守りつがれたカトリックの信仰を身近にいる家族や友人に伝えていきたいと思います。

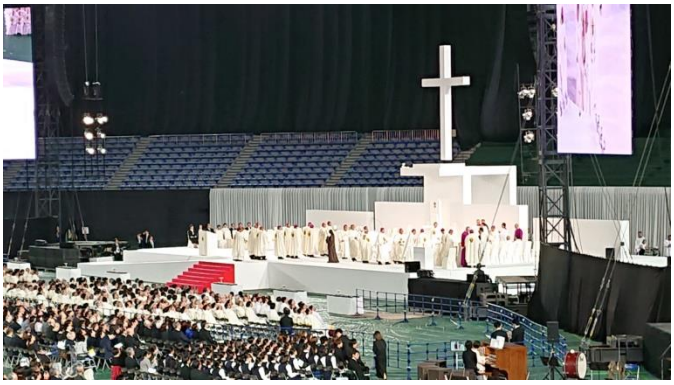
相沢　千代子

パパ様にお目にかかりたい一心で各地から集まったすべての人々と参加できなかったすべての人々の思いと祈りも届き、東京ドームは喜びと力にあふれかえっていました。

教皇様の、いつくしみと温かさに満ちて祝福を送ってくださる笑顔、真摯に祈り語られるお姿を胸に刻み、この私に語りかけてくださったお言葉に、こたえようと日々努めていくことで、この度の恵みの機会への感謝としていきたいと思います。

そして修道院の姉妹たちの祈りを携えて教会の皆様と一日の旅路を共にできたことを心から感謝しております。ありがとうございました。

聖ヨハネ会忍野修道院　　三ケ部　女久美



１１月２５日午後３時半頃、あるグループが急ぎ足で左手トラックの方に詰め寄った。すると一瞬静寂が訪れ、そしてそれまで待ち侘びていたあの白い衣のパパ様がパパモービレに乗って動き始めた。その間にいつもの様に幼児達を祝福なさる姿が大きなスクリーンに！するとそれを見て、大観衆は共感、羨望ともとれる大歓声をあげそれは怒涛となった。（勿論私もその中の１人）黄色の旗をふりまくる。それはドームの丸天井のシートをはねかえさんばかり。その情景は今も私の胸の中に去来してくる。

それはまるで黙示録の１４万４千人の人々がキリストの再臨を迎えているような光景を思わせた。

そして又１２月１日付のカトリック新聞の一記事が私の心をとらえた。

それは彼が教皇に選ばれて間もない頃、バチカンの巡礼者の中をパパモービレで回っている時「フランシスコ！」「フランシスコ！」と名を連呼する巡礼者に「フランシスコ！」ではなく「ジェズ！（イタリア語でのイエス）を呼んでほしいな」と呼びかけたとのこと。

教皇フランシスコが望んでいるのは自分が知られることではなくイエスが知られること、イエスが　もたらした福音（よい知らせ）を伝える事！

それを教皇フランシスコはのぞんでいる、と。

「それでここにこそ教皇フランシスコの尋常でない体力と超人的な存在を見るような気がした。」とあった。ああ私たちはこんなに素晴らしいパパ様を頂いているのだ！神に感謝！

サレジアンシスターズ　Sr 松下　冨美子

「おとずれ」10 月号「教皇訪日」で、「ぜひたくさんの方に行っていただきたいと思います」「何よりも日本の教会のために時間を割いていただければと願っています」という内藤神父さまの記事を読み、あまり乗り気でなかった教皇ミサへの参加を思い立ちました。とても長い間待った教皇様の訪日は、日本中を沸き立たせました。「すべての命を守るため」に教皇様がご自身の存在とメッセージを通して届けてくださった喜びと希望、そして世界、日本、教会、私個人に委ねられた課題としてしっかり受けとめたいと願います。また、教会の皆さんと一緒に過ごしたこの喜びと感動の時を大切な宝とし、神の子の家族の一員であることを誇りとし、与えられた使命を誠実に果たすとの思いを新たにしました。心から感謝します。ありがとうございました。

サレジアンシスターズ　　Sr 里脇　福代

教皇フランシスコは、平和と宣教する巡礼者として日本に来ましたと言われました。日本の歴史の中にある悲惨な出来事、あらゆる傷と死を被った人々を悼むために。そして、天の国は私たちの将来の目標としているだけではなく、病気の者、障害のある者、高齢の者、人間関係に苦しむ者、難民そして外国からの労働する者「今日それを生きることを」。今の時代や社会に理解と共感をされなくても、日本を通じて世界にもとても大切なメッセージを伝えました。「ペトロの後継者である教皇のことばを素直に受け入れる心を、わたしたちにお与えください」と祈ります。

また、千葉から姉家族、北海道から妹夫婦と教皇ミサに共にあずかれたことは、家族を超えた喜びを感じました。

山本　一孝

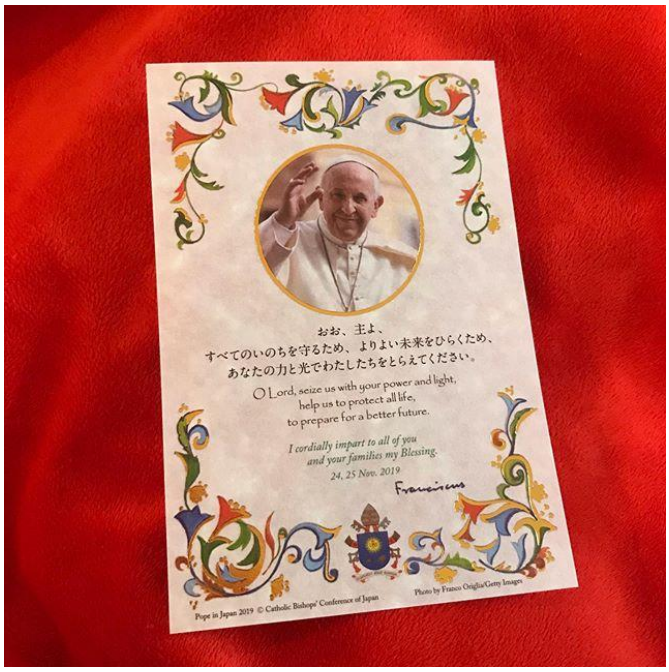
『教皇フランシスコの紋章』

《憐(あわ)れみ、そして選ばれ》

紋章は、教皇のミトラ（司教帽）と天国の鍵とで結ばれています。紋章の盾には、イエズス会の紋章（キリストを象徴する太陽、イエスを表すＩＨＳ、十字架と３本の釘）、星（聖母マリアの象徴）とナルドの花（聖ヨゼフの象徴）が描かれています。

紋章のモットー“MISERAND ATQUE ELIGENDO”(憐れみ、そして選らばれ）は、「イエスは徴税人マタイを見つめ、『憐れみ、そして選ばれ』、わたしについてきなさいと言った」という聖ベータ・ヴェネラビリス司祭による説教の言葉からとられました。17 歳のホルヘ・ベルゴリオは、特別な方法で、神の憐れみが彼自身の心の奥底に下ってきたことを強く感じたと、後に語っています。

【 ペルガメーナ 】

教皇から祝福を受けたというあかしとなるもので、
ミサにあずかった者だけではなく、広い意味で「家族」まで祝福されるとのことです。

※聖堂にありますので、数に限りはありますがお持ち帰り下さい。